

ごあいさつ



吉岡町は平成3年の町制施行から、20年目を迎えます。その間には上毛大橋、吉岡バイパス及び国道17号前橋渋川バイパスの開通や駒寄スマートインターチェンジの供用開始などの交通基盤が整備され、それに伴い大型商業施設の相次ぐ出店や住宅地の開発などが行われ、町の様子はすっかりと様変わりし、発展をしてまいりました。更に、平成22年国勢調査では県内1の人口増加率となっており、今後も変わりなく増加していくことが見込まれています。

しかしながら、世界的な不況や産業構造の変化、少子・高齢化社会の到来などにより、国・地方ともに厳しい財政状況になっております。また地方分権改革の進展により、国から地方への大幅な事務の権限移譲により、町として独自に考え、実行するという、自主自立の町政運営や政策立案が必要となっております。

このような情勢において、今後も町の持続的な発展を長期視点に立って、総合的・計画的に町政運営を行うことが求められ、そのために第5次吉岡町総合計画を策定いたしました。

今後10年を計画期間とし、将来像「キラリ✪よしおか一人と自然輝く丘の手タウン 吉岡町」をキャッチフレーズに町政運営の指針と位置付けます。なお、今回の総合計画の策定過程においては、町民の皆様の幅広い意見を伺い、共に計画を策定することを目的として、ワークショップ、町民アンケート、町政地域別座談会、パブリックコメント、審議会委員への公募等を行いました。まずは、皆様のご意見を反映した計画ができたと考えております。また将来像の実現を目指すため、基本構想には、①将来像、②基本方針、③人口推計、④戦略的に政策を進めるための4つのシンボルプロジェクト、⑤より住みやすい町を目指すための6分野41施策からなる施策の大綱を記載し、実施することによって、町の発展を目指す考えております。

私のマニフェストの基本理念「将来に責任を持つ町政を」の実現のために、この計画のもとに町民の皆様に参加をいただき、住民参加型社会を構築し、地域をつくっていくことが、「将来の責任」を担保するものだと思っています。

結びに、本計画の策定にあたりまして、多くの皆様方にご理解、ご指導、ご協力をいただきましたことを心から感謝を申し上げます。挨拶に代えさせていただきます。

平成23年3月

吉岡町長
石 関 昭